

平成 30 年度がん教育総合支援事業 がん教育推進校実践報告	【実践テーマ〈キーワード〉】
鹿追町立瓜幕中学校	がん教育を通して、自他の健康と命の大切さを学ぶ 〈キーワード〉 がん経験者の講話、質疑応答
学級数：6（3）学級 生徒数：38人	

1 はじめに

本校では、保健体育科保健分野の授業で、「生活習慣病とその予防」の学習を通して、がんに関する内容と生活習慣病について指導をしている。

がんに関する正しい知識や身近な病気であることなどについて理解するとともに、命の大切さや自己の生き方について主体的に考えることができる生徒を育てることを目的として、事業を推進することとした。

2 実践

(1) 保健体育科における基礎知識の定着（3学年）

外部講師による講話の前に、がんという病気や検診、治療についての理解を深めるとともに、生活習慣などがんの予防に向けて取り組めることについて考える授業を実施した。

(2) 特別の教科道徳（1～3学年）

道徳資料を使用して、「障がいや困難に負けない心」をテーマに授業を行った。

(3) がん経験者による講話（3学年）

がん患者・家族の支援会 enn の古城氏による講話を行った。古城氏からは、自身の経験を基にしたがん患者がたどる心のプロセスや、



がんについて理解することの意義、がんに罹患してもできる限りそれまでと変わらない生活をするための大切さについてお話しいただいた。

後半は、質疑応答の時間を設定し、がんの症状や患者会の活動など、生徒全員からの質問に対し、一つ一つに丁寧に答えていただいた。



【生徒からの質問】

- 転移するがんとならないがんがあるのか
- 熱以外の違和感はあるのか
- がんになって困っていること
- がんになるとどのくらいの費用が必要か
- がんは完全に治るのか
- がんになって変わったこと（生活、考え方）
- 患者同士の関わりで気を付けていることなど

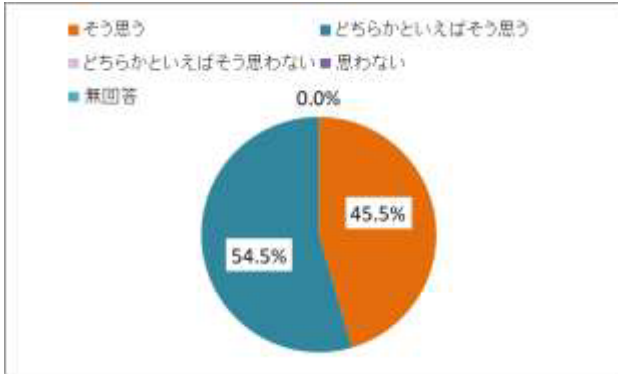
生徒の感想

- 「がん＝死」ではないことが実感できた。
- 望ましい生活習慣を心がけた生活を送りたいと思った。
- 病気や障がい者にも差別せず、自然に関わっていきたくと思った。
- 家族や地域からの支えを改めて考えることができた。
- 健康診断などによる早期発見・早期治療の重要性を知った。

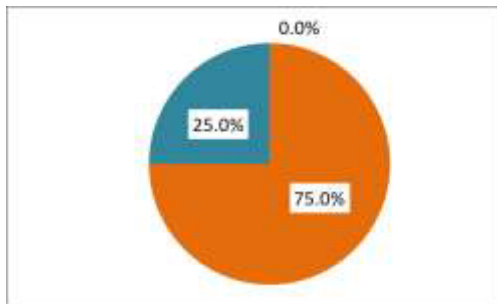
3 生徒アンケートの結果

- 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。

(実施前)

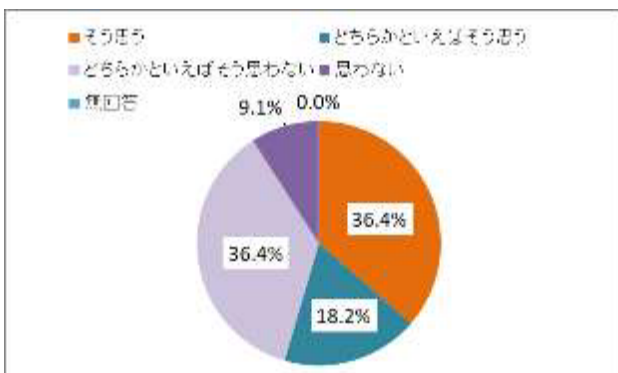


(実施後)

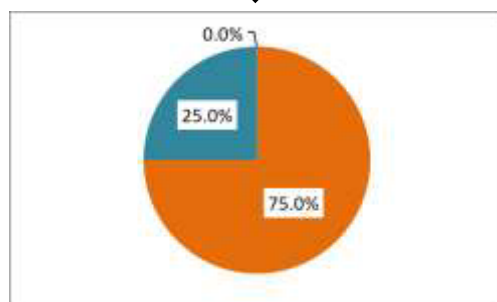


- がんになっても生活の質を高めることができる。

(実施前)

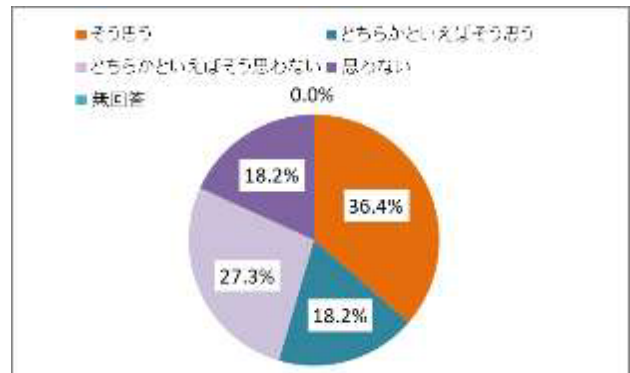


(実施後)

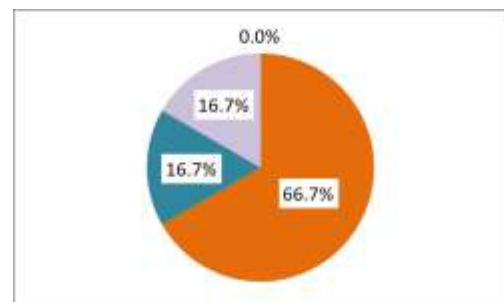


- がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。

(実施前)



(実施後)



4 実践の成果と課題

- 成果 ○

がん経験者による講話を通して、生徒は、がんがそのまま死を意味するものではないことや、健康診断等の早期発見・早期治療の重要性について理解を深めるとともに、望ましい生活習慣を実践する意欲を高めることができた。

また、がん教育の一連の学習過程を経て、がんの予防に関する理解が深まり、自己や家族の健康保持や生活習慣改善への意識を高めることができた。

- 課題 ●

今後は、道徳や各教科の学習内容を関連付けながら、がん教育を教育課程に位置付け、系統的・計画的に実践する必要がある。

また、がん教育を実施する際の配慮事項について、保護者に対する事項を含めて整理する必要がある。